



## “タバ風に吹かれて” ～南松山から8年間を想う

松山医師会 理事  
北海道立江差病院 院長  
中田 智明

### プロローグ～“北海道の医療崩壊”

“医療現場の疲労感、徒労感を直接発信”する企画でご指名を受け大変光栄というか、残念というか…ここ数年多くの公的会議で発言し、議員・首長さん方とこの重すぎる課題を幾度となく議論してきた。ここで明るい建設的意見を改めてとも思ったが、この間を振り返るとその成果の乏しさに愕然とする。したがって本稿では、その思いを取り留めもなく随筆風に書かせていただきたい。

### 医療崩壊の現場～ここはどこ？

元禄時代関川家が江戸から入植し、370年間道内最古の姥神神宮祭の伝統を守ってきた江差。鱈漁と北前船で“江差の春は江戸にもない”と栄えた江戸～明治期。幕末榎本武揚のオランダ帆船海陽丸が沈んでいる江差湾。一曲で3日間400人以上の参加者が喉を競った50年間続く江差追分全国大会。

当地に単身赴任して丸8年。地域医療の問題が深刻化する様を、まさに現場で目撃し、行政、医師会、大学関係者そして住民との議論の中で明るい展望を求め、意見を言い、現場の声も発し、またお願いにも歩き廻った。雲石峠を越えて札幌から赴任してきた8年前もこの日本海からの季節風（“たば風”）が身に沁みたなあ～。

この地域を愛する人々がいる限り、電気・水道・警察・学校・消防が必要なと同じ意味で生命インフラである医療も当然必要。その地域医療を守る責任はどこに？どこまで採算性を求めるの？いつまで医師個人の義務感・使命感に頼るの？との声も聞こえる。いまだ地域医療問題の合理的解決策を呈示できない、わが国ニッポンは先進国、経済大国、技術立国？医師不足、時間外診療・医師の疲弊、産科・分娩停止、救急医療、不採算地区での不採算医療、住民ニーズと病院経営の矛盾…当院のある南松山に來れば発展途上国並みにすべてが見られますよ、と訴えても同情はされても問題の解決は遠い。

### 医師不足～何が幸せか？

この西海岸の素晴らしい夕日。積丹海岸に至るソーランラインの夏の美しい海岸線。すぐみつかる源泉掛け流しの温泉。深夜の水平線に並ぶ見事な漁火。札幌・築地もかなわない良質な海産物…でも研修希望者は激減。

何と素晴らしい新医師臨床研修制度の初期の目的“地域に根ざして、臨床医として必要な、一般臨床・救急、プライマリーケアで最低限必要な知識と経験

を涵養すること”。しかし、“パンドラの箱”をあけてしまったその功罪は問わない。いくら目的が高邁でも方法論を間違えば、こうも医療は荒廃するか、とも問わない。ただ、堂々と言える様になったQOML的発想には感謝したい。一人前になるために臨床・研究に没頭し、無我夢中・喜悲こもごも、でも充実していた若いころ。皆がそうした時代だったから何の疑問もなく。しかし、医師間の較差・地域偏在、診療科間較差、世代間の（逆）較差、住・教育環境の…等々が明らかになってくると、歳のせいかなかなか複雑。こうした不利な地域医療に挑戦する若手医師に大いに期待したいが、こうした現状を訴えれば訴えるほど逆効果か、現在苦戦中～初期の研修目的よ何処へ行く？

そうは言っても私自身は8年間も元気に単身赴任させていただいている。この間子供達は皆大学に入り、卒業し立派な仕事に就くめどもたった（感謝）。時期が良かった？本人たちが良かった？父親はいなくても良かった？か定かではない（母は良し）。継続してきた大学での研究・教育も私には心のビタミン。当地で多くの出会いもあったし、文化と自然にも触れた。何より職場のスタッフに大いに支えられた。

医師は孤立を恐れる。何から？最新の医学情報・知識・技術、人間関係、これまでのキャリア？これらを失う、ないしその可能性のある環境を恐れる。患者様を“支える”とういう言葉をあえて“（地域医療を担う）医師を支える”に使いたい。医師一個人に負担を強いる医療は非合理的である。第一線の地域医療・医療過疎地域・不採算医療の現場で頑張る医師を“孤立させない”システム、社会的責任のある・尊敬される職業である医師がそれぞれ応分に“役割と責任”を一定期間分担できるシステム、それが“キャリア”として将来何らかのメリットとなるように評価されるシステム…がもしできれば真の意味で医師が安心して地域で患者を支えられるのでは？

### エピローグにかえて

先日某新聞に載った米国の学者の話—今の日本が「低成長時代の生き方を示す手本」？その真意は「経済は衰えても日本人の暮らし向きは悪くない。ささやかな進歩も町にみられ…」。確かにそう悲観しなくても、もっと悲惨な国もあるし、そう損な役割でもないか、仲間はいるし、理解してくれる人もいる、ささやかな楽しみだって…それでも言いたい。医療法第30条でいう“一般的な医療サービス”を提供する二次医療圏を守る、地元で出産できることは、「ささやかな医療」の範疇を超えた過大な望みなのかしら……